

コロナ下における保育と子どもの育ちを考えるⅠ
ー予備調査から明らかになったことー

（1）子ども達の育ちの様子と 園の取組について

課題研究委員

新井 美保子（愛知教育大学）



報告内容

I 調査の概要

II 園のお子さん達の様子について

- ・コロナ下の保育の中で、**気になるお子さんの様子**
- ・コロナ下の保育の中で、先生方が**今後の子どもの育ちで不安に思うこと**

III 子どもの遊びや活動、生活環境等や遊び環境等について



I 予備調査の概要

1. 調査時期と方法

2021年 9～10月、Google フォーム又は質問紙への回答により実施

2. 調査対象

対象・・・関東～九州の全12都府県の保育者。有効回答者数:213名

職位・・・園長・施設長(46.5%)、主任・副園長(23.2%)、担任保育者等(30.3%)

所属・・・国公立幼稚園63名、私立幼稚園15名、公立保育所13名、私立保育所19名
公立認定こども園72名、私立認定こども園27名、無回答4名

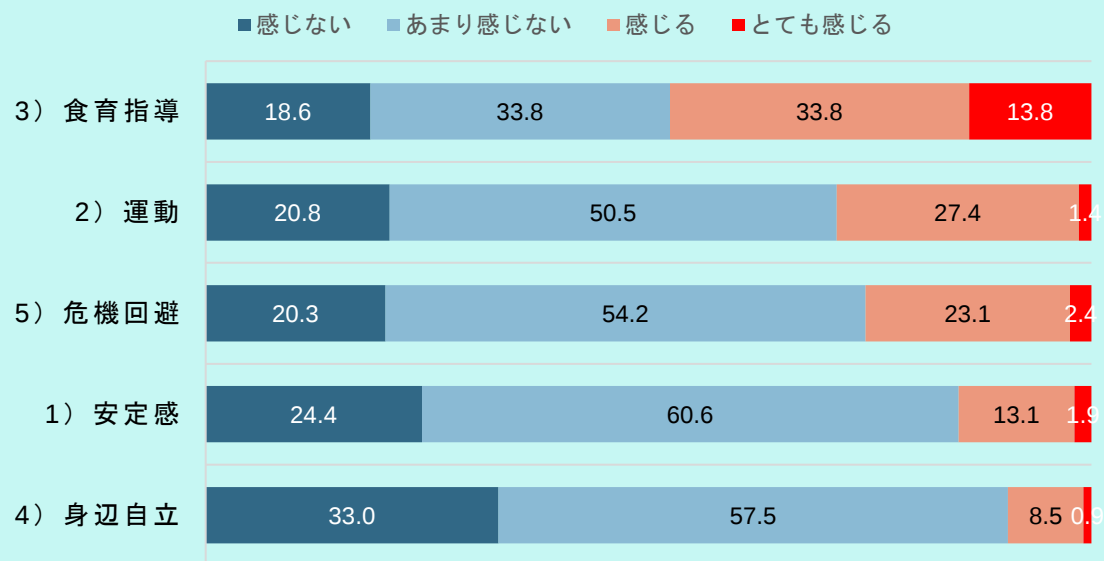
園の規模(総園児数)・・・99名以下(40.7%)、100～199名(52.6%)、
200名以上(6.7%)



Ⅱ 園のお子さん達の様子について

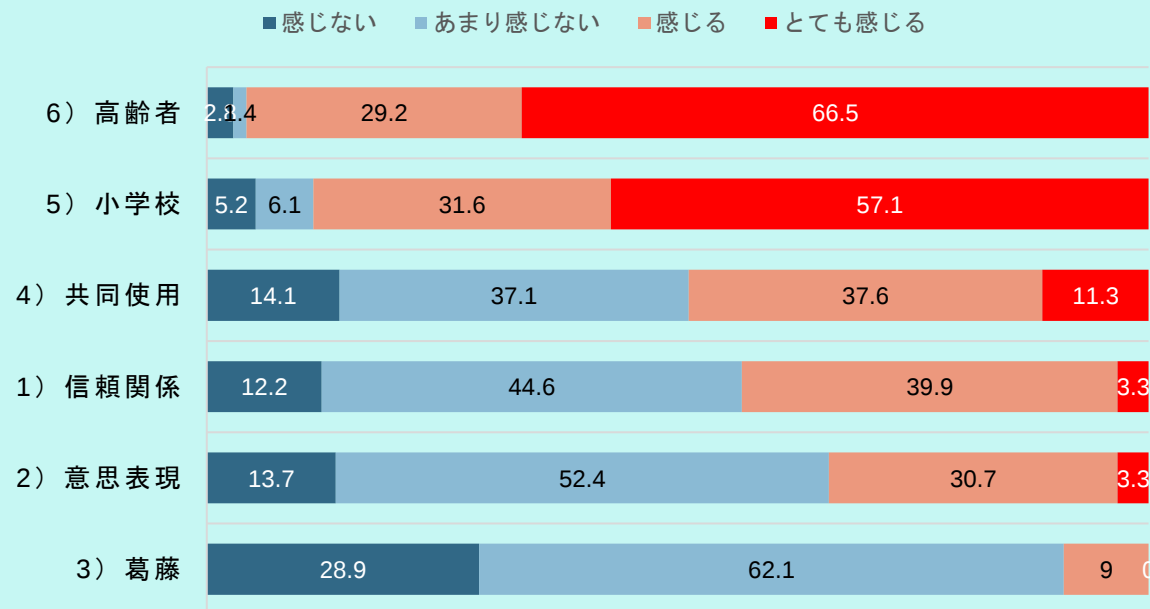
1. コロナ下の保育の中で、**気になる子どもの様子**（＝事実・実態）

（1）心身の健康に関すること



・5項目とも問題点を感じるとする回答は全体的に多くない。
・「3) マスクの着用で**咀嚼**など乳幼児の**食育が難しくなった**」が5割弱とやや多い。

（2）人との関わりに関すること

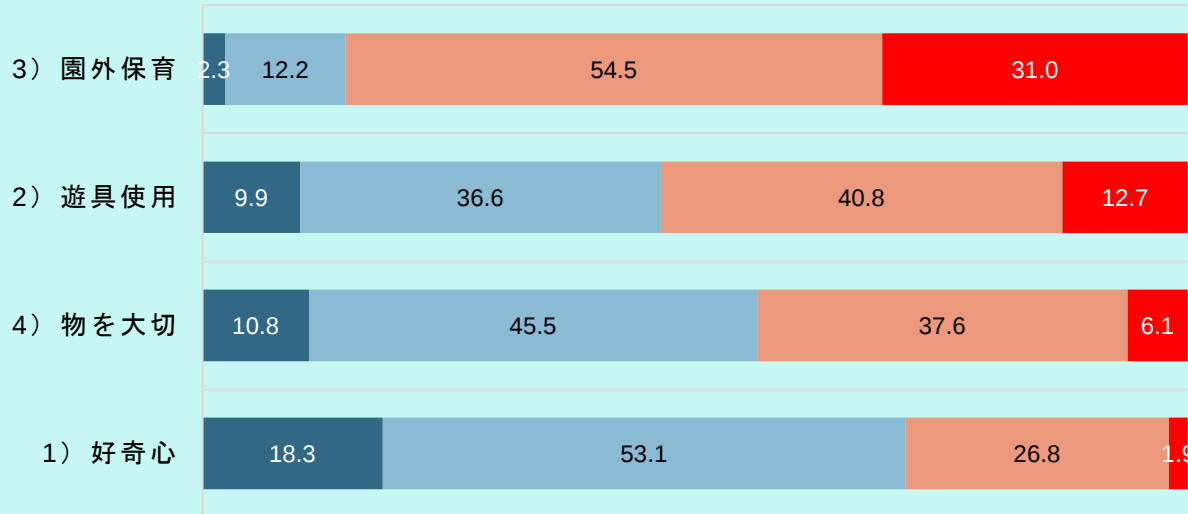


・「6) **高齢者をはじめ地域の人々との交流**」や「5) **小学校との交流・連携**」の減少を指摘する回答が9割程度と非常に多い。
・**共同活動・用具の共同使用**や、**保育者との信頼関係構築**にも半数程度と課題が見られる。

1. コロナ下の保育の中で、気になる子どもの様子（＝事実・実態）

（3）身近な環境との関わりに関すること

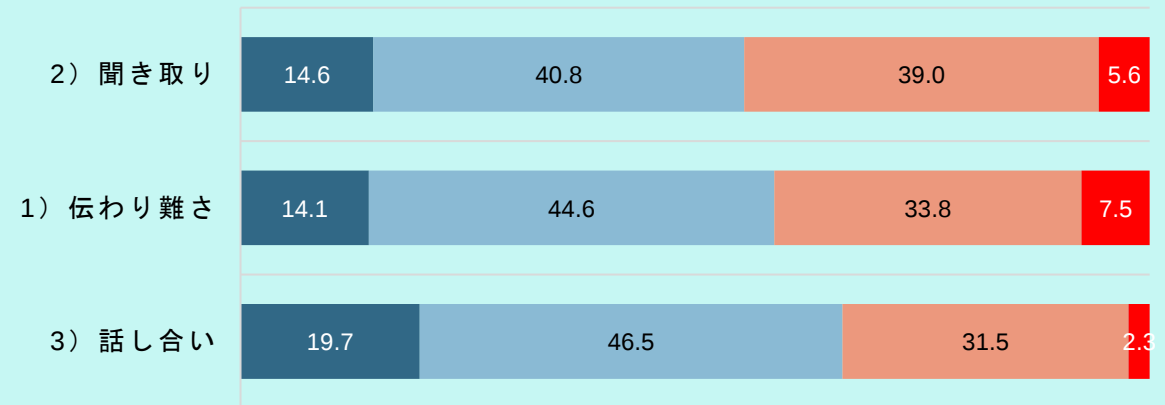
■ 感じない ■ あまり感じない ■ 感じる ■ とても感じる



・「3) 園外保育などが減り、自然体験や社会体験の機会が減った」の指摘が85%と多い。
・「様々な遊具・用具・施設使用」の不十分さや、「使い捨て物品が増えた」ことの指摘も半数程度とやや多い。

（4）言葉の獲得に関すること

■ 感じない ■ あまり感じない ■ 感じる ■ とても感じる



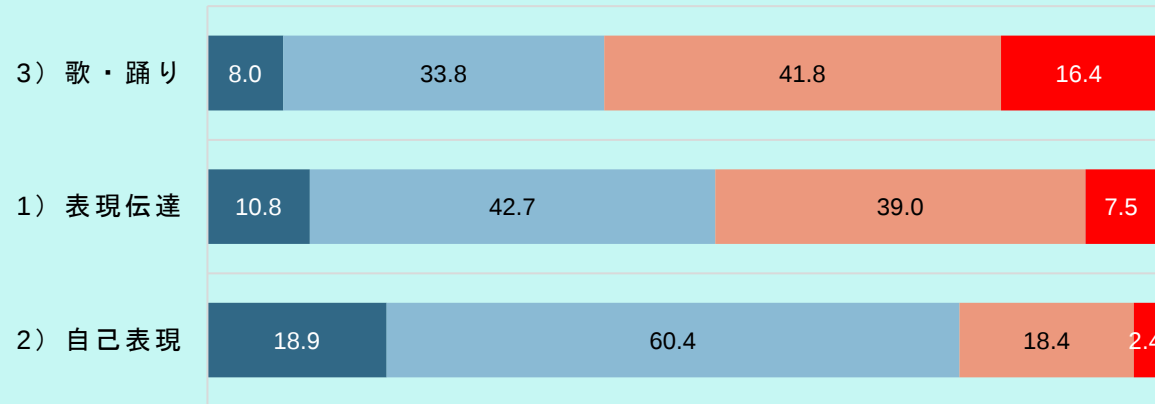
・問題点を特に感じる回答は多くはない。
・「2) 人の話などの聞き取りや理解ができにくくなった」「1) 自分の気持ちを言葉で表現する時に伝わり難さを感じる」指摘が4割程度とやや多い。



1. コロナ下の保育の中で、**気になる子どもの様子**（＝事実・実態）

（5）感性と表現に関すること

■ 感じない ■ あまり感じない ■ 感じる ■ とても感じる



・「3) みんなで歌ったり、踊ったり、楽器を使うなどして**表現する機会**が少なくなった」との指摘が6割弱。
・「1) 子ども同士、**微妙な表情やニュアンス**がわかりにくく、**自己表現が伝わりにくい**」指摘も約半数。

《自由記述から》(回答者:62名)

・手洗い・消毒・マスク着用等の感染予防に過敏になっている。汚れることを嫌う。感染を気にして人に触れられない。等(9名)

・マスク着用が不快、保育士がマスクを外したり違う色のマスクをすると乳児が泣く。等(8名)

・食事時間が集中して短くなり、楽しい雰囲気ではなくなった。(6名)

・異年齢交流が減少(6名)

・触れ合ったり大声を出したりして話したり笑い合ったりする姿があまり見られない。多人数の友達との活動や表現を苦手を感じる子が増えた。入園して初めて家族以外の人と関わる幼児が増えた。等(10名)

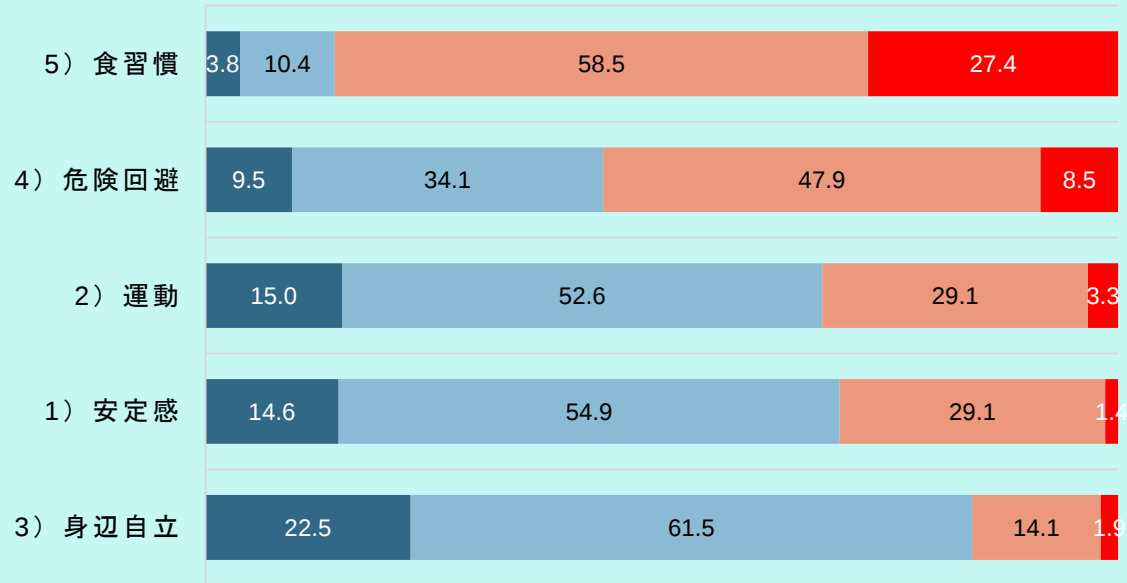
・登園を嫌がる・不安な様子・休みがち、イライラする、些細なことにも敏感、個別の援助が必要、大人の指示を待つ、等(12名)



2. コロナ下の保育の中で、先生方が**今後の子どもの育ちで不安に思うこと**

(1) 心身の健康に関すること

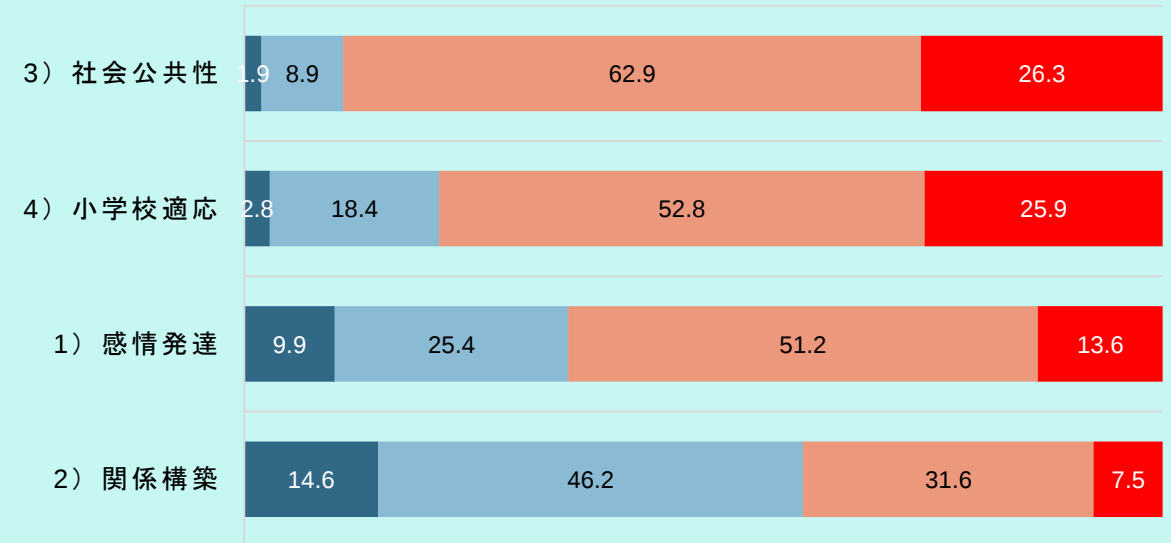
■ 感じない ■ あまり感じない ■ 感じる ■ とても感じる



- ・「5) 会食の楽しさや望ましい食習慣の形成が不安」が86%と特に多い。
- ・「免疫力の低下や危険回避能力の発達が不安」も5割以上とやや多い。

(2) 人との関わりに関すること

■ 感じない ■ あまり感じない ■ 感じる ■ とても感じる



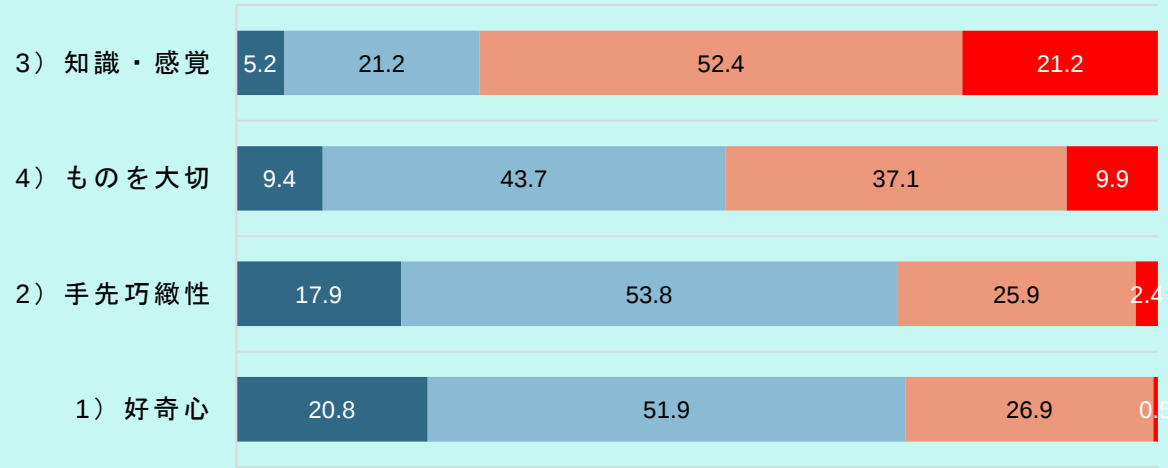
- ・「3) 高齢者や地域の人々等との交流の機会や公共施設や共同の遊具・用具の使用の機会が減り、社会性や公共性の発達が不安」が9割、「4) 小学校との連携が持ちにくくなり、小学校生活への適応について不安」が約8割と特に多い。
- ・「1) マスクやシールドなどで表情が伝わり難いことやスキンシップが持ちにくいことから、情緒や感情の発達が不安」も65%と多い。



2. コロナ下の保育の中で、先生方が**今後の子どもの育ちで不安に思うこと**

(3) 身近な環境との関わりに関すること

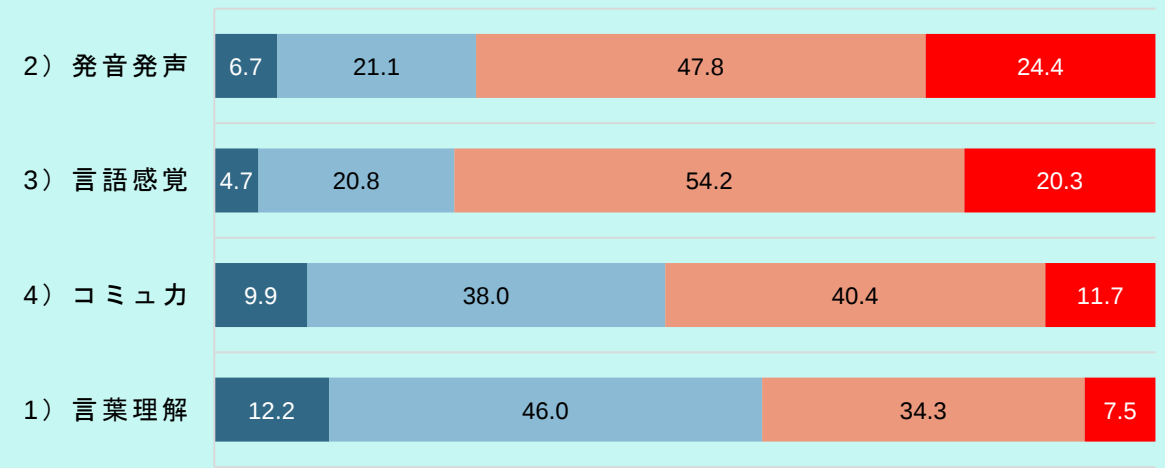
■ 感じない ■ あまり感じない ■ 感じる ■ とても感じる



- ・「自然体験や社会体験が減った一方で、コンピューターゲームやスマホ等のICT機器の使用が増えたため、直接体験の不足で**優しさやたくましさ、確かな知識、感覚等**が身についているか不安」が約7割と多い。
- ・「4) 感染予防のため、直接手で触れない習慣や使い捨ての物品が増えたため、**ものを大切にする気持ち**や**繊細な心情**が育っているか不安」も約半数とやや多い。

(4) 言葉の獲得に関すること

■ 感じない ■ あまり感じない ■ 感じる ■ とても感じる

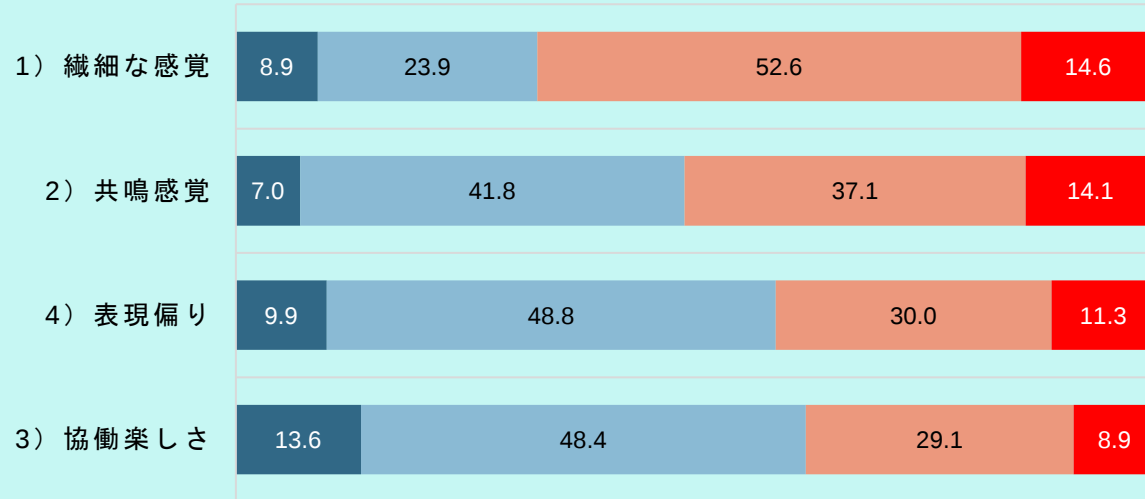


- ・「3) 微妙な表情が伝わりにくく、言葉のニュアンスなど**言語感覚の発達**が不安」や「2) 特に乳児などは、マスクで保育者の口の動かし方が見づらいため、**発音や発声の発達**が不安」がともに7割以上と多い。
- ・「4) 自己主張や人間関係の調整力などの**コミュニケーション能力の発達**が不安」も5割に達している。

2. コロナ下の保育の中で、先生方が**今後の子どもの育ちで不安に思うこと**

(5) 感性と表現に関すること

■ 感じない ■ あまり感じない ■ 感じる ■ とても感じる



- ・「1) 人との**繊細な表現**に気づいたり感じたりする**感覚の発達**が不安」が67%と多い。
- ・「2) みんなで歌ったり、踊ったり、演奏したり、演じたりするなど、**人と共鳴する感覚や楽しさ**が獲得できているか不安」も5割に達している。

《自由記述から》(回答者:34名)

・マスクで人の表情が見えにくいため、他人の表情や気持ちを読み取る力の育成が難しい。(7名)

・友達と思いつきり笑うなど、心と心が十分に触れ合うことや、一緒に活動する等の人との関わりの育ちが不安。(6名)

・動画視聴やゲーム等で遊ぶ時間が増え、外出の減少や生活習慣への影響が不安。(5名)

・声を出す、歌う等の活動ができないため、声の出し方、発声に関して経験が少ないこと。言葉の発音が正確かどうか判断できないこと。(2名)

・運動能力の低下、経験・体験不足。必要以上の感染への不安が子どもの経験不足につながってしまうこと。(5名)

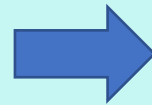


3. コロナ下の保育における**子どもの様子と今後の育ちの課題**

気になる子どもの様子

- 地域の人々との交流の減少
- 小学校との交流・連携の減少
- 自然体験・社会体験の減少
- みんなで歌う・踊る・楽器を使う等の表現機会の減少

- ▲咀嚼などの食育の困難さ
- ▲保育者との信頼関係が築き難い
- ▲人の話の理解や聞き取りの難しさ
- ▲自己表現(言葉、表情等)が伝わり難い
- ▲遊具・用具・施設の使用の困難さ
- ▲使い捨て物品が増加



子どもの育ちに関する課題

- ・社会性・公共性の発達
- ・小学校生活への適応
- ・直接体験、確かな知識・感覚
- ・人と共鳴する感覚や楽しさの獲得
- ・情緒の安定や感情の発達
- ・会食の楽しさや食習慣の形成
- ・免疫力や危険回避能力の発達
- ・自己主張や人間関係の調整力
- ・コミュニケーション能力
- ・繊細な表現に気づいたり感じたりする感覚
- ・言語感覚の発達
- ・発音や発声の発達

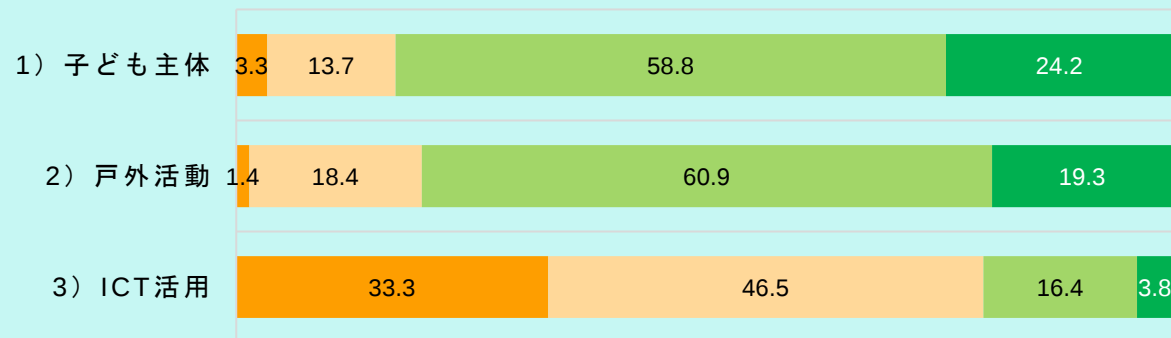


Ⅲ 子どもの遊びや活動、生活環境等や遊び環境等について

1. 子どもの遊びや活動について、努力・工夫していること

(1) カリキュラムについて

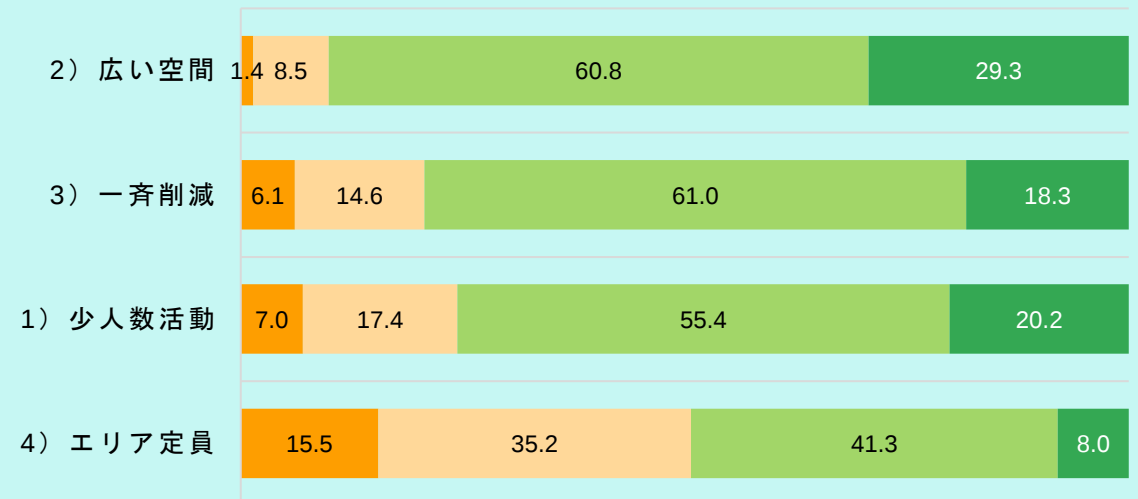
■行っていない ■あまり行っていない ■行っている ■よく行っている



・保育上の工夫として「1)行事中心の保育構成から、子ども主体の活動展開へと変更。好きな遊びやプロジェクト活動を増加」や、「2)運動不足・運動能力低下対策として戸外で十分に身体を動かす活動を意識的に導入」との回答が8割に達している。

(2) 密集回避・飛沫感染防止策

■行っていない ■あまり行っていない ■行っている ■よく行っている



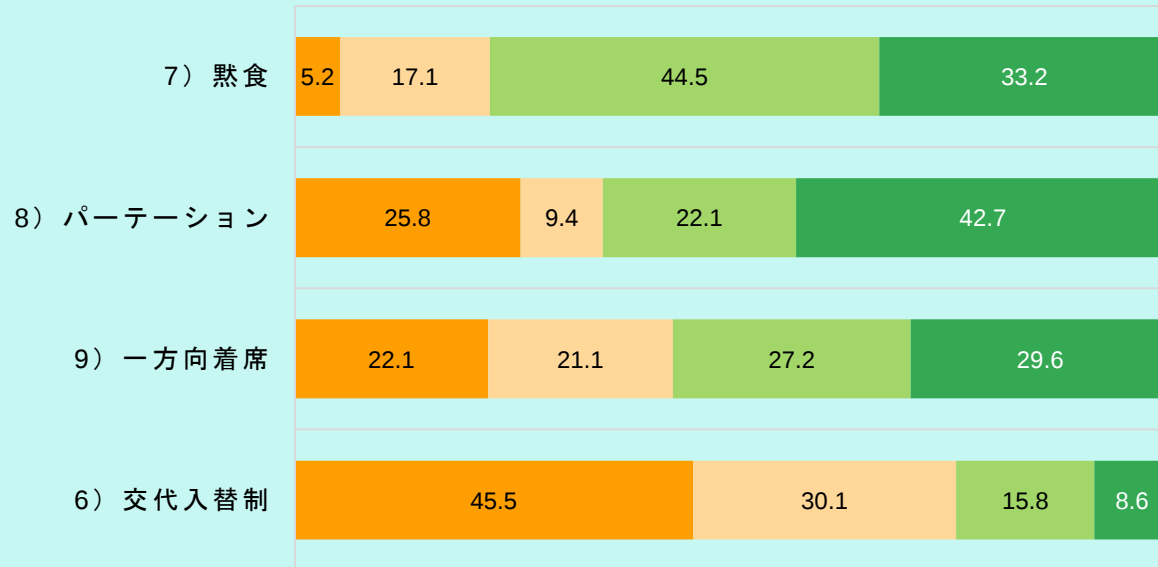
・感染防止として「2)園内の広い空間を利用した活動」や「1)小グループ・少人数活動」を増やし、「3)遊びの拠点を分散させ、集団一斉活動を削減」したとする回答が75%以上に及んでいる。



1. 子どもの遊びや活動について、努力・工夫していること

(3) 昼食時の飛沫感染防止

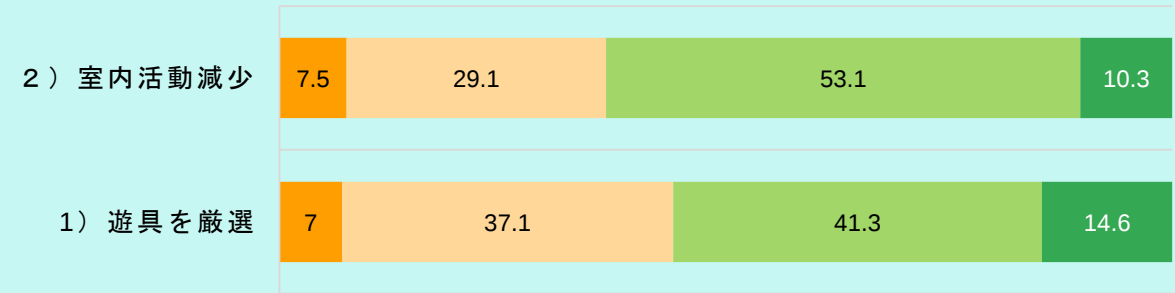
■行っていない ■あまり行っていない ■行っている ■よく行っている



・昼食時の飛沫感染防止策としては「7) 黙食の導入」8割弱、「8) 透明パーテーションの設置」65%に続き、「9) 一方向に着席して食事」も57%と過半数に及んでいる。

(4) 消毒・換気

■行っていない ■あまり行っていない ■行っている ■よく行っている



・換気対策としては「2) 室内での活動を減少させ、**戸外活動**を工夫」が63%。
・消毒対策としては「1) **おもちゃや遊具**を厳選（例えば布製品を減らし他の素材へ転換等）」が56%に及んでいる。



2. 配置・補充してほしい人材は？

〔複数回答〕

1 位	保育者（保育士、保育教諭等）	67.5%
〃	保健・衛生面での専門職員（看護師等）	67.5%
3 位	事務職員	42.2%
4 位	清掃員、用務員、カウンセラー、 子育て支援担当保育者、保育補助（無資格）、 特別支援教育支援員・担任補助、等	0.5%

・園内の広い空間や戸外を利用した活動や、遊びの拠点を分散させた活動、小グループ・少人数での活動を増やすと、担任保育者1人では保育が難しいのではないかな。

・最新の効果的な感染予防対策を実施していくために、専門職員として看護師・養護教諭等の配置が求められているのではないかな。

・行政からの通知文書を整理し、家庭への連絡等も迅速・円滑に実施していくためにも、事務職員の配置が求められているのではないかな。



まとめ ～子どもの育ちを保障するために

1. 園外のひと・もの・ことを中心に、直接体験が不足

⇒自然体験、社会体験、年長者との関わり等を意識的に導入。

子どもの好奇心・探究心、社会性・公共性などを育成。

2. 子ども同士が夢中になって関わることや、自己表現、相手の感情の理解などが不足。マスクで表情がわからない。

⇒人への親近感や信頼感の育成につながる遊びや援助の工夫を。

例えば、お気に入りの友達と十分に遊べる時間や場所の保障を。

3. 情緒の不安定さ、集団に入ることの不安感・緊張感、感染に対する警戒感

⇒ 家庭と連携しながら、園生活の楽しさ・必要性を実感できる工夫を。

合理的に感染対策を実施し、不安感を煽らない。

◎保育スタッフの拡充が必要！

・・・保育者、保健・衛生面の専門職員、事務職員



ご静聴いただき
ありがとうございました。

次は「保護者対応や地域との関わり及び行事等の状況
について」です。

